若者を呼び込むための市を紹介する冊子制作業務

静岡産業大学情報学部　小林克司ゼミ
指導教員：教授 小林 克司
参加学生：藤中 依織、松本 英祐、森田 育水
猪原 勇樹、甲賀 寿希、髙田 眞弥

1. 要 約

本研究は、地域自治体の共通した課題の1つである「定住人口増加」の促進を目的とした小冊子制作業務により、課題解決の糸口を探る取り組みである。藤枝市を含む県内では、進学・就職などをきっかけとした若者の県外流出が大きな問題として取り上げられている。本取り組みでは、UIJターンの動機づけや移住・定住人口拡大を目指し、地域のセールスポイント発掘や移住者へのインタビューをもとに、「選ばれる藤枝市」のためのプロモーションに活用する小冊子をデザインし、学生視線から新たな藤枝の魅力を提案した。

2. 研究の目的

本研究の主な目的は、藤枝市の定住人口拡大を目指し、特に若い世代（20～30歳代）に向けて移住候補地としての「藤枝市」を認知してもらうため、小冊子を通した魅力発信と移住支援情報などの提供である。

3. 研究の内容

取材やヒアリングを通じて藤枝市の魅力を再発見し、同市における若者のUIJターンのきっかけとなる小冊子の制作が主な研究内容である。具体的な内容は、編集方針の検討・決定、掲載内容の執筆および編集、取材・撮影の実施、プロジェクトロゴの制作、画像編集、誌面レイアウト作業および印刷データの作成などである。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

ゼミ学生等地域貢献推進事業の地域課題として、同市から提出されていた内容は以下の通りである。

「大学生の立場から若者を惹きつける内容の調査・研究を、市と協議しながら策定し、デザイン力を活用しAR機能付きの小冊子8ページ程度を制作する。」
（本事業地域課題調査票より要約）

また、事前ミーティングでは小冊子完成サイズはA4を想定しており、活動期間については令和元年8月～令和2年1月とした。

(2)実際の内容とその理由

当初の計画にそって、グラフィックデザインに関わる制作物（パンフレット）については予定通り実施したが、詳細の仕様について若干の変更が生じた。具体的には、AR機能実現については、サーバーやサービスなどの別途契約の必要性が生じるため見送りとし、また、仕上がりサイズはA4からA5に変更することで、携帯性を重視することとした。実際の仕様は以下の通りである。

完成サイズ：A5タテ　中とじパンフレット（見開きA4）
印刷品質　　：オフセット
ページ数　　：8P
刷　色　：両面4色

(3)実績・成果と課題

実績と成果については、具体的な作業工程にそって報告する。

本研究連携先である市担当者と提案側担当教員との事前打合せの後、市担当者からゼミ学生へのオリエンテーションを設定し、本事業の概要や目的、要望などを直接聴取する機会を設けた。まずは、藤枝を深く知ることを前提に、今回の対象地域でもある中山間地区の取材を含めたフィールドワークから始める

こととなった。（写真-1, 写真-2）
　取材とは別に、同市から提供されている移住や子育て支援などに関するさまざまな情報を同時進行で収集し、整理、分類しながら制作物に必要な素材として検討した。市担当者からの要望と協議を重ねながら、本誌で発信する情報整理を行うことができた。
　実制作に移行する段階で、特に以下の2点について先行して着手した。
　　・編集方針の検討
　　・ロゴデザインの実施

写真-1 取材風景（藤の瀬会館・上）
写真-2 取材風景（陶芸センター・下）

　前者については、今回の制作物におけるコンセプトに当たり、編集やビジュアル作成など作業全般に関わる方向性を決める重要な工程である。「ほどよく、都会。ほどよく、田舎。」という同市のキャッチフレーズの1つである内容を踏まえながら、本研究では「選べる暮らし」をコンセプトとすることにした。中山間地区の豊かな暮らしと駅周辺地区の便利な生活の両面からアプローチし、藤枝の魅力紹介を試みる展開とした。また、コンセプトの具現化を図るため、小冊子体裁は本文縦組み（右開き）と横組み（左開き）の両方を採用することとし、内容に応じて組方向に変化をつける構成とした。
　後者のロゴを制作は、今後の展開も考慮し成果物への掲載はもちろん、活動の可視化、および活動意識の強化をねらいとした取り組みである。図-1はいくつか提案したアイデアの中から採択されたロゴである。住居を意味する家のイメージと「uij」の英字をオーバーラップさせたシンボルに「UIJ　FUJIEDA」のテキストを配置してロゴとして成立させている。

図-1 ロゴデザイン

　ほぼ同時進行で、編集方針に基づいた3案の制作プランの提出をおこなった。採択されたプランの制作チームが、以降ディレクションを担当しながら、コピーライティング、画像編集、レイアウトデザイン等作業内容を分担し実制作を進行させていった。
　本研究実施にあたっての課題としては、以下の2点に集約することができる。
　　・スケジュール管理
　　・企画力、構想力の育成
　本プロジェクトは、通常授業、通常ゼミ研究の活動に加えて取り組んでいたため、参加メンバーのスケジュール管理や市担当者との調整が難航し、全体の進行が遅延してゆく原因となった。十分な活動期間が確保されていたわけではないので、進行管理は重要な課題であった。
　また、制作全体を通して不足している部分として実感されたことは、企画力、構想力の強化である。0（ゼロ）から企画を起ち上げ、形にしてゆくことは非常に大変な作業である。既存のメディアではなくオリジナリティが求められ、類似した案は企画として成立させることは難しい。可能な限り広い視野と客観性を意識しながら構想してゆくことが重要である。企画力、構想力の育成は今回の取り組みを通じて、今後強化すべき課題として把握することができた。

(4)今後の改善点や対策
　今回の活動の中で、藤枝市在住者でも日常生活では気づくことのないさまざまな諸問題が存在していることがわかった。移住支援により既に藤枝市に移り住んだ2組の家族へのインタビューの中で、それら諸問題について数点見出すことができた。以下に同市における今後の

改善点や対策について挙げる。

1. 公共交通手段の整備
2. 公園の設置
3. 駐車場の整備

1項については、特に中山間地区における問題である。同市の自主運行バスとして路線バスは運行しているが、約1時間に1本程度の本数であるため、居住者は自家用車の所有が必須とされる。公共交通手段の整備の充実により、今後、移住促進が期待されるところである。

2項は、大きい公園の有無について、県外同規模都市と比較すると「若干少ないのでは」とのインタビュー内容であった。このことは3項とも連動しており、蓮華寺池公園は駐車場が整備されているが、駅南公園には駐車場の整備は整っていない。特に子育て世代には、公園や駐車場の問題は移住決定因としてのウェートが高いものと考えられるため、移住支援と合わせて整備、検討が望ましい。

5. 地域への提言

今回の活動内容の情報収集作業で感じられたことは、市庁内の情報発信が整理されていない点である。移住に関連する情報でも、内容により関係部署が複数にまたがり、また類似した情報が複数の部署から発信されていた。コンテンツ共有の視点からは効果的ではあるが、受け手にとっては、いくつものリーフレットを手にしながら情報整理を委ねられる形となる。今回の制作物では、情報を整理、分類することで必要な事柄を的確に入手できるようコンパクトな編集に注力した。活用者の必要な情報に迅速に対応できる媒体制作を目指した。

6. 地域からの評価

首都圏以外の地方自治体にとって共通の課題である「大学進学を機に流出した若い世代の人口を、どのようにして補うか」という点に関して、藤枝市に移住してきた2組の家族への取材を通して調査・研究し、その成果を学生たちの発想とデザイン力で一つの冊子に上手に表現することができたと思います。特に、左右両面を表紙にして、縦組みと横組み、配色やデザインにそれぞれ変化をつけることで、市内における異なった2つの地域での生活を、より分かりやすく記載した点は素晴らしかったです。また、冊子内のロゴについても、今後、市の事業でも引き続きモチーフとしたい上質なデザインで、非常に完成度の高いものになったと思います。

調査の中で分かった上記(4)の課題の把握や、外部からの視点で提言された行政の情報発信における当該成果物の有効利用などについては、今後、藤枝市全体の施策に大いに活用させていただきます。学生たちには、引き続き、自分たちに関わるまちの動向に注視し、若い発想と行動力をもって、藤枝市がより魅力的な街になる新たなアイデアを提言してくれることを期待しています。今回の活動、本当にお疲れさまでした。